

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティはいばら		
所在地	静岡県牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	令和4年10月8日	評価結果市町村受理日	令和4年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過で外出や面会が思うように出来ない状況が続いていますが、利用者様にとってサンシティが居心地の良い施設作りにも努めています。週に1度看護師が訪問を月に1度医師が往診をしてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人グループ傘下の4事業所は、管理者間の情報共有の場を必要な都度開催し運営に反映している。コロナ禍の影響からコロナ禍前の地域交流は疎遠となっているが、民生委員への挨拶や地域防災訓練に管理者が参加するなど、できる範囲で地域との繋がりを継続できるように努め、アフターコロナを見据え、これまで行っていた事業所主催の「秋祭り」の再開も考えている。利用者の写真と職員のコメートを添えたお便りを送付し、また電話をして家族とのつながりを継続している。家族アンケートの実施で家族の意見を運営に反映している。食事は専門スタッフによって手作りされ、職員も同じものを一緒に食べ、利用者の好みを見極め献立に反映している。感染対策に力を入れ、こまめな換気と毎日4回の消毒の拭き掃除はフローアールやドアノブなど丁寧にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に実践に繋がるように職員一同努力を行っている	事業所は、グループ法人傘下の4事業所の管理者会議を必要な都度開催、事業所内の会議は全職員会議を3か月に1回、フロアーミーティングを2か月に1回を目標に実施し、理念の実践やそれに付随する事項について確認や話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ということもあり地域との交流機会はもてていないが、管理者が地域の防災訓練などに参加して交流している	コロナ禍の影響からコロナ禍前の地域交流は疎遠となっているが、民生委員への挨拶や地域防災訓練に管理者が参加するなど、できる範囲で地域との繋がりを継続に努め、アフターコロナを見据え、これまで行っていた事業所主催の「秋祭り」の再開も考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナの影響でご家族様等を交えての運営推進会議など出来ていないが、民生委員や町内会長には状況の報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり運営推進会議は開催出来ていないがご家族様の意見などを反映しサービスの向上に努めている	コロナ禍の中、2か月に1回書面掲載となっている。会議テーマとして「ヒヤリ・ハット」や「事故報告」が常時取り上げられて、議事録に返信用FAX用紙を添付し運営委員に送付することで意見の吸い上げを行い運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿課には相談は積極的に行っている	コロナ禍の折り、運営推進会議の開催が難しい中、議事録の連絡を中心に関係を継続して市の担当窓口とは関係継続に務めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について適正委員会やミーティングにて話し合う場を設けている	身体拘束適正化委員会は3か月に1回テーマを決めて開催され、参加委員との間で身体拘束をしないケアについて確認を行っているが、委員会委員名簿が整備されていないので、外部知見者を交えた名簿の整備に取り組んでもらいたい。年2回の研修会も実施されている。	

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止アンケートを実施し、研修等で学び虐待の無いよう注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	生年後見人制度を利用した事はないが制度については管理者が職員に説明する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の凍結、解約または改定等の際は説明を行い理解、納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、ご家族が面会に来られた際には利用者様の状況を報告するとともに意見や要望を聞けるよう関係性作りに努めている。	コロナ禍で家族訪問の機会が閉ざされ、管理者はこれまで行ってきた家族の訪問面会時におけるコミュニケーションができないため、積極的に電話にて入居者の様子を伝えることを心掛けている。また家族に満足度アンケートを実施し、結果を家族、職員にフィードバックし、運営に反映する予定。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者を交え管理者ミーティングを行っている。職員からの意見や提案などについて報告・話し合いを行っている	管理者は日頃の会話を大切に、職員に問題点が生じた場合は都度声掛けを行い、意見等には朝、夕の申し送りやフロアミーティング、職員会議の場で情報共有に努め運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し職員が向上心を持って働ける環境作り・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン講習などを利用し研修を受けるようにしている。年間を通し、職員一人一人に合った研修が出来る準備をしている		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣の施設に訪問し、情報の共有に努めている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用者様に寄り添う事で得た要望などをサービスに活かせるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っている事・不安要望に添った話し合いを行い、安心・納得していただけるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時にはアセスメントを実施し適切な支援・サービス利用の提供に努めている。他業者とも連携し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用様と一緒に出来る事は一緒に行い感謝の言葉を伝えながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の思い、要望をご家族と職員が共有理解し、同一歩調で本人の支援が出来るよう務めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で面会が制限されているが、電話で話をする機会を設けたり、コロナ感染者数の現象時には短時間の面会を支援している	コロナ禍前は、家族との外出や花見など積極的支援していたが、面会や外出が制限されており難しい状況となっている。そのためZOOMなどSNSでの対面を計画していたが実施されていない。	入居者にとって、馴染みの人や家族との対面は何にも代えがたい楽しみでもあることから、早急にオンラインによる対面ができるように職員研修を含めその整備に努めて欲しい。

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて一緒にレクリエーションでカラオケや塗り絵などを提供し一緒に楽しんでいただけよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には今後の動向を伺い気になっている事などの有無を確認し出来る事があれば協力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が職員に思いや希望を伝える事が出来るような関係性を築き、聞き出せた内容をもとにケアプランに反映させ支援していけるよう努めている	入居時の「フェイスシート」に利用者や家族、その他の関係者からの聞き取りを記入し、職員が気づいたことは「申し送りノート」に記入されている。職員はそれらを見て情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を頂いたり日々の生活の中で本人やご家族に傾聴し新たな情報棟があれば必要に応じ記録し職位が共有できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したら利用者様に挨拶をし普段と変わりがないかを確認し、毎朝バイタルチェックも行い把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートで職員同士話し合い意見を交わしケアプラン作成に反映させている	「申し送りノート」やタブレットに入力された情報を基に、「評価表(モニタリング実践記表)」でこまめにモニタリングを行い、フロア会議でアセスメントを行っている。看護師や家族の意見を聞いて介護計画書に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス内容で利用者の1日の行動や発言を記入しケアプランの見直しに活かせるようにしている		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化とご家族様の思いを考慮しサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を活用できるよう心掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	榛原病院の医師に月に1度往診してもらっている。職員が医師に日頃の様子を報告し指示を仰いでいる	榛原病院の医師による往診が月に1回あり、週に1回看護師が訪問している。看護師とは24時間オンコールで連絡をとることが可能である。かかりつけ医の受診には家族に職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度利用している訪問看護師に利用者様の状態を報告し指示を仰ぎ受診や介護に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者様の情報を看護師に提供し利用者様・ご家族様が安心して入院生活ができるよう支援しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の施設の方針説明を行っている。終末期には訪問看護師と医師と看取りの計画を話し合うようになっていく	重度化した際の指針、マニュアルを整備し、入居時に利用者、家族に説明をするほか、状態変化時に都度説明を行い同意を得ている。終末期になると、主治医、看護師から体調について説明をし、事業所と話し合って方針を決め、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習は何人かの職員は受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身につけられるよう勉強しています		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練がメインになっているが年2回訓練を実施している	年2回の防災訓練をテーマを決めて実施しているが、コロナ禍でもあることから地域を巻き込んだ訓練とはなっていない。また訓練テーマについても一貫性を欠いている。災害備蓄品については備蓄台帳が整備されておらず、職員が誰でも確認できる環境にない。	災害訓練は、訓練の目的→実施→評価→改善のPDCAサイクルに基づき実施され、実効ある訓練となるように努めることや、災害備蓄品の台帳を整備し職員がいつでも確認できるように環境整備に努められたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の訴え・話を否定せず肯定的に聞き入れるよう心掛け、本人の人格や習慣を受け入れ言葉かけには尊重を心がけている	指針を整え、特に「○○ロック」の研修には力を入れ行っている。職員は利用者的人格を尊重し、話を聞く姿勢ができています。職員ができていない時には管理者が注意し会議で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えや要望には出来る限り耳を傾け本人が安心満足できるような対応を心がけている。利用者様が選択できるような声掛け対応に心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々の生活のリズムを尊重し、希望に添えるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪を支援している。衣類はご自分で選べるよう支援に心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る事は手伝っていただき、普段の会話の中で利用者様が食べたい物を聞き出し献立に活かせるようにしている	専門スタッフの手作りで、職員も一緒に同じものを食べ、聞き取った内容を献立作りに活かしている。季節の行事や誕生会等には特別食にして食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。水分が苦手な方には寒天など摂取しやすいように提供している		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアを行い口腔内の清潔を維持出来るよう支援している。就寝前には技師を洗浄剤につけ清潔を保っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況は記録し、排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行う事でトイレでの排泄に繋がるようにし自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、利用者個々の排泄パターンを把握し、動作や様子を見ながら声かけをしてトイレ誘導を行っている。夜間も安全面に気をつけ、自立にむけてできるだけトイレ利用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をすると共に担当医師・訪問看護師に相談し指示を仰ぎ、個々に応じた予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回程度ある。入浴の希望日。時間には添えられていない。	入浴は基本的に週に2回、午前中に行っている。利用者の体調や気分配慮してゆったりと入ってもらえるように柔軟な対応を心がけている。また、ゆず等を利用して季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベッド・床布団で寝られるように支援している。居室でいつでも自由に横になり休んでいただけるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で種類や効能・副作用・服用の仕方・注意事項を理解し、服用時には氏名を確認して服用していただき、飲み込み確認を行うようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で個々に合わせたレクリエーションなどの楽しみや居心地の良い場の提供つくり心掛け支援している		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には散歩や外気浴などの声掛けを行い拒否される利用者さまに対しては無理強いせず、できる範囲で支援している	コロナ禍であるが、感染状況を見ながら、外出支援をするように配慮している。事業所周辺は自然が広がり、景色が良いので散歩や駐車場で外気浴で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本職員が管理している。買い物と一緒に掛ける機会があれば利用者様にお金を渡し自分で使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を「掛けたり手紙を書いたりし、やり取りが続けていけるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心安全な環境の提供を第一に考え、ソファの位置や座席の配置に考慮している。季節にあったちぎり絵などフロアに展示している	コロナ感染対策として消毒は食後、夜間とフロア、手すり、トイレ等を重点的に継続して行っている。また、季節を感じてもらえるような室内装飾を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり出来る時間や気の合った仲間と一緒に過ごせるような居場所づくりに心掛けている。初めは職員が介入する事で繋がりを作っていけるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人が使い慣れた物、馴染のある物(衣類・布団・仏壇)なども持ってきていただいている。	ベッドと大きなクローゼットがある居室は使い慣れた家具を持ち込み、心地よく過ごせるようにしている。換気には気を配り、朝起きてフロアに利用者がある時には窓を開け、ドアノブ等こまめに消毒を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に合わせ安全かつ自由に生活出来る空間づくりに心がけている。過度な介助にならないよう職員同士で話し合いをし支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティはいばら		
所在地	静岡県牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	令和4年10月8日	評価結果市町村受理日	令和4年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 11月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過で外出や面会が思うように出来ない状況が続いていますが、利用者様にとってサンシティが居心地の良い施設作りに努めています。週に1度看護師が訪問を月に1度医師が往診をしてくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に実践に繋がるように職員一同努力を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦ということもあり地域との交流機会はもてていないが、管理者が地域の防災訓練などに参加して交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナの影響でご家族様等を交えての運営推進会議など出来ていないが、民生委員や町内会長には状況の報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦ということもあり運営推進会議は開催出来ていないがご家族様の意見などを反映しサービスの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿課には相談は積極的に行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について適正委員会やミーティングにて話し合う場を設けている		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止アンケートを実施し、研修等で学び虐待の無いよう注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生年後見人制度を利用した事はないが制度については管理者が職員に説明する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の凍結、解約または改定等の際は説明を行い理解、納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、ご家族が面会に来られた際には利用者様の状況を報告するとともに意見や要望を聞けるよう関係性作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者を交え管理者ミーティングを行っている。職員からの意見や提案などについて報告・話し合いを行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し職員が向上心を持って働ける環境作り・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン講習などを利用し研修を受けるようにしている。年間を通し、職員一人一人に合った研修が出来る準備をしている		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣の施設に訪問し、情報の共有に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用者様に寄り添う事で得た要望などをサービスに活かせるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っている事・不安要望に添った話し合いを行い、安心・納得していただけるよう関係づくりに努めている・		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時にはアセスメントを実施し適切な支援・サービス利用の提供に努めている。他業者とも連携し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用様と一緒に出来る事は一緒に行い感謝の言葉を伝えながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の思い、要望をご家族と職員が共有理解し、同一歩調で本人の支援が出来るよう務めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で面会が制限されているが、電話で話をする機会を設けたり、コロナ感染者数の現象時には短時間の面会を支援している		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて一緒にレクリエーションでカラオケや塗り絵などを提供し一緒に楽しんでいただけるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には今後の動向を伺い気になっている事などの有無を確認し出来る事があれば協力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が職員に思いや希望を伝える事が出来るような関係性を築き、聞き出せた内容をもとにケアプランに反映させ支援していけるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を頂いたり日々の生活の中で本人やご家族に傾聴し新たな情報棟があれば必要に応じ記録し職力が共有できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したら利用者様に挨拶をし普段と変わりがないかを確認し、毎朝バイタルチェックも行い把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートで職員同士話し合い意見を交わしケアプラン作成に反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス内容で利用者の1日の行動や発言を記入しケアプランの見直しに活かせるようにしている		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化とご家族様の思いを考慮しサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を活用できるよう心掛けています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	榛原病院の医師に月に1度往診してもらっている。職員が医師に日頃の様子を報告し指示を仰いでいる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度利用している訪問看護師に利用者様の状態を報告し指示を仰ぎ受診や看護に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者様の情報を看護師に提供し利用者様・ご家族様が安心して入院生活ができるよう支援しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の施設の方針説明を行っている。終末期には訪問看護師と医師と看取りの計画を話し合うようになっていく		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習は何人かの職員は受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身につけられるよう勉強しています		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練がメインになっているが年2回訓練を実施している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の訴え・話を否定せず肯定的に聞き入れるよう心掛け、本人の人格や習慣を受け入れ言葉かけには尊重を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えや要望には出来る限り耳を傾け本人が安心満足できるような対応を心がけている。利用者様が選択できるような声掛け対応に心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々の生活のリズムを尊重し、希望に添えるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪を支援している。衣類はご自分で選べるよう支援に心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る事は手伝っていただき、普段の会話の中で利用者様が食べたい物を聞き出し献立に活かせるようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。水分が苦手な方には寒天など摂取しやすいようにし提供している		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアを行い口腔内の清潔を維持出来るよう支援している。就寝前には技師を洗浄剤につけ清潔を保っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況は記録し、排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行う事でトイレでの排泄に繋がるようにし自立にむけた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をすると共に担当医師・訪問看護師に相談し指示を仰ぎ、個々に応じた予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回程度ある。入浴の希望日。時間には添えられていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベッド・床布団で寝れるように支援している。居室でいつでも自由に横になり休んでいただけるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で種類や効能・副作用・服用の仕方・注意事項を理解し、服用時には氏名を確認して服用していただき、飲み込み確認を行うようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で個々に合わせたレクリエーションなどの楽しみや居心地の良い場の提供つくり心がけ支援している		

静岡県(グループホームサンシティはいばら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には散歩や外気浴などの声掛けを行い拒否される利用者さまに対しては無理強いはせず、できる範囲で支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本職員が管理している。買い物と一緒に出掛ける機会があれば利用者様にお金を渡し自分で使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を「掛けたり手紙を書いたりし、やり取りが続けていけるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心安全な環境の提供を第一に考え、ソファの位置や座席の配置に考慮している。季節にあったちぎり絵などフロアに展示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり出来る時間や気の合った仲間と一緒に過ごせるような居場所づくりに心掛けている。初めは職員が介入する事で繋がりを作っていけるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人が使い慣れた物、馴染のある物(衣類・布団・仏壇)なども持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に合わせ安全かつ自由に生活出来る空間づくりに心がけている。過度な介助にならないよう職員同士で話し合いをし支援している		